

皐月を迎えて

分所長 高木 敏彦

新緑の緑も色濃くなってきました今日この頃ですが、信徒の皆様方にはご機嫌よろしくお過ごしのことと存じます。

さて今月は碧南分所の春の大祭を盛大に制限なくお迎えできる幸せを皆様と共に喜びたいと思います。また、大祭の伶人さんが、天内さんと蒲生さんの若い人でご奉仕頂けることになりました。これからも若い人の参拝を引き続きお願い申し上げます。

清純にして堂々の偉丈夫 ②

出口 直日

三千磨さんは、いつも相手の人の長所を広くみつけて、その人のよりよき進展をのみ願っている人でした。そして自分には、時々きびしい自己反省を求めています。そういうところも好ましくなにかにつけて、わたしと気の合うところがありました。三千磨さんとは話し合う機会もまれましたが、別々のところにて知る世の中の出来事に、いつも、同じ見方をし、同じ意見を双方でもらっていたようです。尚江はそのことを、いつも不思議そうに、わたしに、つげましたが、そういうことがあったから、格別に、三千磨さんをいつまでも、惜しむわけではないのです。

大本の信仰に入る人は一概にきれいな心の持ち主です。ことに、それぞれ純真な自我の持ち主です。しかし、いつの場合にも、信仰が中心になっているかという点、そこには大きな問題が残されて

いましょう。 なにか、自己の立場に強い関連をもつ場合、人間は特に、自己のみにくい執着をからませ、信仰とかけはなれた行為にでることがあります。三千磨さんには、いつの場合もそれが見出せず、つねに公明正大な行動のとれる学べき人でした。

三千磨さんも、いろんな事情から、自分の気持ちにみにくいオリの溜まることも、やはりあったことと思います。それを、三千磨さんはいつも自己を鞭打って神様の前にすすみ出て、自己分析をし、二ゴリを澄ましていたのだと思います。 そうして、いつも公明正大な堂々とした行動に徹していたのだとおもいます。

三千磨さんを今にして惜しむゆえんです。

ひきとめるすべもなく、清らかな一期をかけるように昇天した三千磨さんでした。あの人の姿をわたしの目前から失った日、自分の足許が、くずれ落ちていくような嘆きをおぼえたものです。

そしてこの方二十一年間、三千磨さんが生きていてくれたらとおもったことは、しばしばです。その都度わたしは、三千磨さんの正堂堂とした生き方を懐しみ想うのです。

いきかはり死にかはり此の道のためつくさむといひてゆきし汝はや

いちはんほんとのこといひくれし弟よかかるよきひとをとばにうしなふ

主な行事予定

5月4日(木) 亀岡天恩郷

教主様御生誕祭

5月5日(金) 綾部梅松苑

みろく大祭

5月14日(日) 午前10時半より

碧南分所春季大祭祖霊合同慰霊祭

5月21日(日) 午前10時より

三河本苑春季大祭・祖霊慰霊大祭

5月28日(日) 午前10時より

三河本苑にて「新聞ちぎり絵をしませんか?」芸術部

6月11日(日) 午後1時半より

碧南分所月次祭 担当第1班

6月18日(日) 午前10時より

三河本苑月次祭

5月の誕生者

おめでとついでいます!

大塚 英志	藤浦 直	高橋 まりな	1日	江坂
元康 2日	樫山 勲	5日	杉浦 康幸	6日
奥谷 直人	12日	市古 圭一	14日	杉浦 梢
19日	栗津 よし子	20日	奥谷 文子	21日
蒲生 ゆい	25日	市古 糸み子	25日	高橋
直人	26日	朝野 元子	29日	